

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」

教材名 「大造じいさんとガン」

2 単元の目標

- ・登場人物の心情や情景描写など優れた叙述を味わいながら読み、大造じいさんの生き方について考えることができる。
- ・自分の思いや考えが伝わるように朗読をするとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○目的に応じ、内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしなが ら本や文章を読もうとして いる。	○自分の思いや考えが伝わるように音読 や朗読をしている。 ○登場人物の相互関係や心情、場面につ いての描写を捉え、優れた叙述につい て自分の考えをまとめている。	○語感、言葉の使い方に対する感覚 などについて意識して文章を読ん でいる。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

本単元で、児童は初めて「朗読」という言葉の意味を知り、朗読発表会を行う。朗読をするためには、作品の世界を自分なりに捉えることが必要である。大造じいさんの心情に沿って書かれた物語を大造じいさんの心情の変化、人物像を自分なりに捉えながら朗読にいかしていきたい。また、優れた叙述について自分なりの考えをもたせながら、朗読で表現させたいと考える。

(2) 教材文について

本教材は、場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんの行動を表す細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写、さらに闘う残雪の行動描写の巧みさなどで児童が物語の世界に引き込まれる作品である。また、大造じいさんは、なぜ最初はあるなかに憎たらしいと思っていた残雪の傷を治し、放してやったのだろうかなど、大造じいさんの心情の変化についての疑問をもち、残雪との心の結びつきを読み味わわせたい。本作品には、残雪と大造じいさんとの間に繰り広げられる生存のための厳しい闘いを通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中に生き生きと描かれている。残雪のもつ知恵や勇気、統率力の素晴らしさと、残雪の行動を本能と知りながら、本能的行動と決めずに人間と同等として闘う大造じいさんの人間らしさ、正義感、愛情を読み取らせたい。また、場面の描写や登場人物の相互関係や心情をとらえ、優れた叙述について自分なりの考えをまとめさせたい。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

(1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動

(2) 「物語文を読む10の観点」の活用

(3) 音読の工夫

- ・三読法における読みの機会を設定した。あらすじをつかむための読み、思考を深めるための読み、学習によって深まった理解を表現するための読みの機会を設定した。

(4) 板書の工夫・学習環境の工夫

- ・本題材には、景色や色など優れた情景描写が多く見られる。それらの情景を児童が思い浮かべられるように挿絵も黒板に掲示する。
- ・学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができるようにする。

(5) 発問の工夫

- ・児童が叙述に沿って想像できるように、視点をしばって発問する。

(6) ワークシートの工夫

- ・一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定することで、児童が課題に取り組みやすくなるようにする。また、サイドラインを引くための本文と自分の考えを書き込むスペースを一体化させることで、叙述に基づいて自分の考えがもてるようにする。

(7) 話し合いの場の設定

- ・友達との交流により、自分の考えに自信をもったり、友達の意見に共感したりできる場をつくることで、学習を深められるようにする。

6 学習指導計画（全9時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	・物語が四つの場面から構成されていることを捉え、中心人物が大造じいさんと残雪であることをつかむ。 ・心に残ったことを中心に感想を書く。	【関】物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書くことができる。 (発表・ワークシート)
	2	物語の大体をつかむ。	<u>物語のあらすじをとらえよう</u> ・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークシートにまとめることができる。 (ワークシート)
2	3	第一場面から残雪に対する大造じいさんの思いを読み深める。	<u>残雪に対する大造じいさんの思いを読み取ろう</u> （第一課題） ・大造じいさんの気持ちが表れている所にサイドラインを引き、発表する。【選択】 <u>「あの」には大造じいさんのどのような思いが込められているのだろう</u> （第二課題） ・第1場面でガンの呼称が「残雪」から「あの残雪」に変化していることを読み取り、大造じいさんの思いを読み深める。【類推】 (言葉の力)「あの残雪」(限定する連体詞)	【読】「あの」に込められた大造じいさんの残雪に対する気持ちを読み深めることができる。 (発表・ワークシート)
	4	第二場面を読み、大造じいさんの心情と、その変化を読み深める。	<u>大造じいさんの気持ちの変化を読み取ろう</u> （第一課題） ・「会心のえみ」から「うなって」に変化する大造じいさんの気持ちを表しているところにサイドラインを引き、心情を比べる。【選択】 <u>大造じいさんの気持ちが表れているところを探そう</u> （第二課題） ・情景描写から大造じいさんの気持ちを読み深める。【選択】【類推】 (言葉の力)「あかつきの光が小屋の中にすがすがしく」(情景描写)	【読】「あかつきの光」などの情景描写から大造じいさんの気持ちを読み深めることができる。 (発表・ワークシート)

	5・6	第三場面を読み、残雪に対する大造じいさんの心情を考える。	大造じいさんの気持ちがどのように変化したかを読み取ろう (第一課題) ・大造じいさんの気持ちが表れている所にサイドラインを引き、心情を考える。【選択】【類推】 (言葉の力)「青くすんだ空」「東の空が真っ赤に燃えて」 「あの残雪め」 (色彩語、情景描写、限定する連体詞、接尾語)	【読】「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写や本文の叙述に基づいて、大造じいさんの気持ちの変化を読み深めることができる。 (発表・ワークシート)
	7 (本時)	第四場面を読み、大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちについて考える。	残雪を空に放したときの大造じいさんの気持ちを読み取ろう (第一課題) ・大造じいさんの心情が分かる行動にサイドラインを引き、読み取れる心情をワークシートに書き、発表する。【選択】【比較】 大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちが表れているところを探そう (第二課題) ・情景描写などを基に晴れ晴れとした気持ちが表れているところを探す。【選択】【類推】 (言葉の力)「ある晴れた春の朝でした」、「快い羽音一番」、「らんまん」、「いつまでも、いつまでも」(情景描写)	
3	8・9	読み取ったことを基に、自分の好きな場面の朗読を発表し、感想を伝え合う。	読み方を工夫して朗読しよう ・どこが、なぜ好きなのか、その場面の特色を考えて朗読する。	【読】読み取ったことを基に、自分の好きな場面の朗読をし、感想を伝え合うことができる。 (発表)

7 本時の指導（7／9時）

（1）本時の目標

- ・「快い羽音一番、一直線に空へ飛び上がりました。」「いつまでも、いつまでも…」、「ある晴れた春の朝でした。」「らんまんとさいた…」という行動や情景の描写に着目して、大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちを読み深めることができる。

（2）展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導 入	1 前時までの学習活動を振り返る。		
	2 本時の課題を知る。		
	残雪を空に放したときの大造じいさんの気持ちを読み取ろう（第一課題）		
展 開	3 第四場面を大造じいさんの気持ちを考えながら、黙読する。		
	4 大造じいさんの心情が表れているところにサイドラインを引き、そこから読み取れる心情をワークシートに書き込み、発表する。【選択】【比較】	○サイドラインを引かせる。 ○叙述を根拠に気持ちを考えさせる。 ○これまでの場面と比較して、大造じいさんの気持ちの変化を考えさせる。	【読】大造じいさんの心情が書かれた表現をもとに、大造じいさんの心情の変化を捉えている。 (発表・ワークシート)
	大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちが表れているところを探そう（第二課題）		
	5 前時までの学習を踏まえて、晴れ晴れとした気持ちを表しているところにサイドラインを引き、グループで話し合う。【選択】【類推】	○行動や情景の描写の叙述に即して、大造じいさんの気持ちを考えさせる。 ○支援が必要な児童には『 』というのは、～を表している。』という型に沿って書くことよいことを伝える。	【読】「ある晴れた春の朝でした」などの情景描写から、大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちを読み深めることができる。 (発表・ワークシート)
	＜言葉の力＞ ・行動や情景の描写が登場人物の気持ちを表すことがある。		
ま と め	6 本文から読み取ったことを踏まえ、第四場面を音読する。	＜言葉の力＞ ・行動や情景の描写が登場人物の気持ちを表すことがある。	